

学校教育目標	「友だちがすき」豊かに成長し合える友だちとのかかわりをめざします 「台小がすき」自分らしさを発揮し、問題解決に向かって進んでかかわる力を育てます 「このまちがすき」まちに愛着をもち、地域の一員としてかかわる力を育てます ○問題解決に粘り強く取り組む子どもを育てます(知) ○よりよい人間関係を築く子どもを育てます(徳) ○心身ともに健やかな子どもを育てます(体) ○地域に愛着をもって進んでかかわる子どもを育てます(公) ○自他の社会や歴史、文化を尊重し、よりよい生活をつくる子どもを育てます(開)			

学校概要	創立 45 周年	学校長 芳賀 慈	副校長 中西建介	2 学期制	一般学級: 16	個別支援学級: 2
児童生徒数: 494 人		主な関係校: 小山台中学校、本郷中学校、西本郷中学校、本郷特別支援学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<コミュニケーション能力> <協働して課題解決する力>	小山台中学校 小菅ヶ谷小学校 小山台小学校	豊かな関わり合いの中で、自らの課題に粘り強く取り組む子ども ・自らの課題に取り組み、進んで活用・探究する力を育てる。 ・豊かな関わり合いを大切にして、共に生きる力を育てる。 ・教育環境を整えることにより、学力向上を図る。

中期取組目標	○子どもがまちと豊かに関わり学ぶことを通して、自分らしさを発揮し、他者とともに生きる力を育む学校にします。 ・どの子どもも安心して自分らしさを発揮し、他者と共に望ましい人間関係を築く中で、自尊感情を育めるようにします。 ・豊かな体験を通して、主体的・対話的で深い学びを実現し、学ぶ楽しさを実感できるようにします。 ・自分の心身を大切に思い、健やかに成長しようとする生活習慣を形成できるようにします。 ・まちに進んで関わる取組を推進する中で、まちを愛する心や生きる力を育みます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当 人権教育担当	①たてわり班活動や本郷特別支援学校との交流等を通して、学年や学校の枠を超えて、お互いの個性を認め合い、支え合う学習を展開していく。②校内外の人権に関するプログラムを実施し、自己肯定感、他者理解を育てていく。
生きて はたらく 知 担当 教育評価部	①各教科・領域で、聞き方や話し方を意識した、学び合いのある授業展開を図り、学びの基礎・基本の定着と活用力育成を目指す。②重点研の研究テーマを「本気の思いを対話により深める学び」と設定し、生活科、『横浜の時間』を中心に、「思いをもち対話する力」を育成する。
公共心と社会参画 担当 重点研推進委員会	①生活科、『横浜の時間』に、地域の方とのかかわりを積極的にもち、交流を深める。②まちの一員として自分達にできることは何か考えたり、働くことの意義を理解したりしながら地域や社会のために他者と協働しようとする。
健やかな体 担当 体育部	①全校で定期的で大縄集会を実施したり、中休みに学年ドッジビーを行ったりし、運動の習慣を身に付ける。②新体力テストのデータをもとに、運動委員会による体力向上プロジェクトを発足する。③子ども主体で学校保健委員会を実施し、自ら健康を意識して生活する態度を養う。
安全管理 担当 安全部	①安全部を中心に職員全体で災害緊急避難時や不審者対応時に、子どもたちが安全に避難できる判断力や行動力を育てる。そのために様々な避難訓練を計画し、実行する。②地域防災拠点会議で、地域とともに組織的な連携がとれるよう計画する。
児童・生徒指導 担当 児童指導部	①職員会議や打ち合わせで児童の情報交換を行い、全職員で児童理解に努める。②年2回のYPアセスメントや生活アンケート、日々の観察や面談により子どもの実態把握を行い、指導や支援に生かす。③児童支援専任を中心に関係機関とも連携し、指導体制の充実を図る。
地域連携・学校運営協議会 担当 教務部	①地域コーディネーターを中心に連携方針をもち、積極的に保護者や地域の力を導入し、有意義な学習活動を行う。②学校便りやホームページ、学校運営協議会で学校の取組を発信し、評価を受け、運営改善に努める。特に運営協議会では子どもの成長や課題を共有し、学校運営への参画を仰ぐ。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①研修等でいじめに対する意識を高め、未然防止や早期発見、早期解決に全職員で組織的に取り組む。②職員間の情報共有を積極的に行い、関係機関とも連携できる児童支援体制を確立する。③「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、自尊感情を高める授業や集団づくりに取り組む。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 教務部・メンターチーム	①学年やブロックで児童の様子を共有し、教材研究を行う。特に、生活科、『横浜の時間』の重点研究を通して指導力向上を目指し、人材育成を図る。②5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、活動を継続して行う。③本年度から配置された職員室業務アシスタントを活用し、職場全体の業務の軽減を図る。